

魂よ安らかなれーロシア兵墓地ー

まちを歩く (人権のかおりを求めて)



ここにこんなに多くのロシア語の墓石があるのだろうか。

1904(明治37)年から始まった日露戦争では、多くのロシア兵が捕虜となり、愛媛の松山をはじめ日本の各地に収容された。その数は8万人近くにもものぼる。現在の大阪府高石市につくられた浜寺俘虜(捕虜)収容所には、多いときで2万8千人の捕虜が収容され、それは当時の高石村の人口の8倍にもなった。収容所は、1906(明治39)年まで設置されたが、今はその面影はなく、南海電鉄高師浜駅前に高石市が立てたプレートがあるのみである。このあたりの整然とした道路は、俘虜収容所の名残といわれている。

この俘虜収容所では、89名の兵士が亡くなった。異国の地で寂しく命を落とした人を悔やみ、泉大津市の人々が、自分たちの墓地のうち約600平方メートルを提供して、ここにロシア兵の墓地がつくられた。このために、ここには89基の墓石が並び、

このロシア兵墓地の中央には、当時の帝政ロシア政府が建てた五

角の石造慰霊碑がある。そこには、ロシア語やアラビア語、ドイツ語、ポーランド語、ヘブライ語の5か国語で「魂よ 安らかなれ」と刻まれている。これは、ここに眠る兵士の母国の言葉という。

また、そのそばには、元収容所長が墓地の建設の由来を書いた記念碑もある。そこには、「志ある者がロシア人の墓を建て、その中央にロシア政府が碑を建てて冥福を祈る」との意味が、漢文で書かれている。

青年の写真が飾られている墓石もある。そこには、未来を見つめる青年のまなざしがあった。戦争によって異国の捕虜となり、そこで命を落とした青年たち。その寂しさと生きて自国に帰れなかった無念さを感じる

とき、地域の人々が自分たちの土地を分けてでも、その気持ちにこたえようとしたのだろう。今も地域の人々が、祖先を祭祀するのと同じ気持ちで香華をたむけ、清掃を続けているという。この墓地が、戦争の過ちを心に刻み、二度と戦争を起こさないことを人々に訴えかけているように思えてならない。

建ち並ぶ墓石のすべてに、淡いピンク色の花が供えられ、冬の風に小さく揺れていた。



友だちつてだいじ

守口市 小学二年生(当時)

田川知紗

あたしが
いじめられてないでたとき
友だちが

「だいじようぶ。」

と声をかけてくれた

あたしは

心のなかで

「あつたかいことばだなあ。」

と思った。

世界に同じ人はいないから

貝塚市 中学三年生(当時)

分木亜衣子

世界に同じ人はいないから
みんな違ってあたりまえ

世界に同じ人はいないから
意見が合わぬこともある

世界に同じ人はいないから
人の目が気になるの？

世界に同じ人はいないから
孤独を感じてしまうみたい

世界に同じ人はいないから
誰かと一緒に居たくなる

世界に同じ人はいないから
違いをわち合えそうね

世界に同じ人はいないから
助け合わなきゃいけないよ

世界に同じ人はいないから
みんなと一緒に生きたいの

世界に同じ人はいないから

2009年度(平成21年度)人権啓発詩読書感想文募集事業
(大阪府大阪府教育委員会愛ネット大阪)の入選作品より

2011年(平成23年)3月発行

発行／大阪府府民文化人権室

〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16大阪府咲洲庁舎38階
TEL:06-6210-9281 FAX:06-6210-9286
http://www.pref.osaka.jp/jinken/

この情報誌は7,000部作成し、1部あたりの単価は97円です。

編集／財団法人大阪府人権協会

〒552-0001 大阪市港区波除4-1-37 HRCビル8階
TEL:06-6581-8613 FAX:06-6581-8614
http://www.jinken-osaka.jp

「そうぞう」とは

人権尊重社会を実現するためには、さまざまな偏見や差別を受けている人の状況・気持ちを「想像」することと、豊かな人権文化を「創造」することが必要です。この情報誌がこれらの「そうぞう」につながるように—そんな思いが込められています。